



椎の木

令和7年2月28日発行 3月号

朝霞市立朝霞第八小学校

〒351-0012 朝霞市栄町5-1-41

TEL:048-465-8381 FAX:048-467-4739

児童数：1, 144名

【目指す学校像】教育は子供の未来づくり ～児童に未来を生き抜く力の基礎を育てる学校～

水をやり過ぎた木は枯れる

校長 田中 誠



度重なる寒波襲来で寒かった2月。4日には帯広市で12時間に降った雪の量が120センチと全国の記録を更新するなど、日本各地で記録的な大雪に見舞われました。弥生3月、令和6年度も最後の月を迎えます。暖かくなるのが待ち遠しいですね。

さて、本校の校舎前、赤レンガのところに1年生の植木鉢が並べられています。1学期は朝顔を育てていましたが、今はチューリップの球根が植えられ、朝、子供たちが水やりなど世話をしている姿をよく見かけます。新年度の入学式の頃に、きれいに咲き並ぶ様子を見られるのが楽しみです。

ところで、植物を枯らす原因のワースト1といったら、何でしょうか。調べてみるとそれは水やりなのだそうです。水やりは、土の内部が乾いたら、鉢底の穴から流れ出すまで与えるのが基本。表面が乾いているくらいの状態だと、根は水を求めて伸びていきます。常に土が湿っていないといけない、と誤解されがちなのですが、それだと根が呼吸できずに腐ってしまうのだそうです。「水やりが大切」と思ってやるのが、却って植物に悪影響を与えることになってしまうのです。1年生の担任も、水のやり過ぎにならないよう、子供たちに声をかけています。

私たち教育に携わる者が子どもたちに対することも、それと同じだと言えるのではないかと思います。それは、良かれと思ってやっていることが、やり過ぎになってしまっていないかということです。教える立場として、子供たちにわからせよう、子供たちができるようにしようといふ教え過ぎてしまいがちになるのです。しかし、これだけになってしまうと、子供たちは受け身の学習となってしまう、子供たちに身に付けさせたい力の1つである「主体的に学ぶ力」を付けることが難しくなってしまいます。

本校では、子供たちがわかる・できるようになることはもちろん大切にしながら、「教師は教える立場から、伴走者へ」「教師は学びのファシリテーター、コーディネーター役に」を目指し今後も授業改善に取り組んでまいります。ご家庭におかれましても、お子さんに対してついやり過ぎてしまっていることはないか、考えてみるのもいいかもしれませんね。



2/13 8の字跳び大会

強風の中、どの学級も記録更新を目指し頑張りました。



2/13 JFA サッカー教室

外部講師と一緒に4年生がサッカーを楽しみました。



2/22～23

なかよし作品展
於：中央公民館



わかば学級の作品が
展示されました。